



## 2012 年度 姫路文連総会と記念講演会

本年度の姫路文連の総会が2月19日午後1時半から市民会館で開かれました。

昨年度の活動の総括として、茶座の開催と交流会、姫路文化賞と文化功労賞、黒川録郎賞の選定と受賞式の開催。施設見学文連ツアーは開催出来ませんでした。決算報告と会計監査報告が承認されました。

今年度の方針提案として、茶座、「つながりからの発信」を開催いたします。施設見学文連ツアーも山口県の香月泰男美術館と金子みすずの生家に一泊旅行を計画いたします。姫路文化賞、文化功労賞、黒川録郎賞の選定と受賞式(開催場所の変更を検討中)、今年度予算の提案と役員改選を行ない和やかな中に終了しました。

本年度初めて記念講演会を開催。昨年、黒川録郎賞を受賞していただきました、彫刻家の北川太郎さんに「彫刻家の見たアンデス文明」と題して映像を交え体験を語っていただきました。先人達の知恵と技術の高さ驚嘆しました。高度な文明もスペイン人により、1週間で滅ぼされたと聞き、栄枯盛衰は世の常とは言え、儂さを感じました。北川さんと共にアンデスツアーの夢が広がりました。

場所をとんかつ「ふなこし」に移し、豚しゃぶととんかつでの交流会も和やかな中、お酒も進み和気藹々と楽しい交流会となりました。

松本 英治

## ラオスの休日

吉田 ふみゑ

大橋ひろ美さんから「ラオスに行きませんか」というメールが入ったのは昨年11月末だった。姫路市美術館で学芸課長をしておられた堀澤光栄さんが、JICAでルアンプラバンにある王宮博物館(国立博物館)の写真整理と資料作り支援に2011年の1月から就かれています。私は、即「行きます」と返信した。

数日後、大橋さんからラオスタイルコーディネーター毛利有紀子さん(35)を紹介された。毛利さんは今年から始まった「ラオス観光年」に合わせて「ラオスへの観光客を増やし、観光年を盛り上げよう」と、姫路を拠点にラオスの魅力を発信している方だ。若いだけでなく、利発で頼もしい、というのが第一印象だったが、印象以上の女性だった。ラオスに関する知識はゼロに等しい私は2月25日の出発に備え、毛利さんに少しばかりの事前学習をもらった。

海のないラオスは、日本の本州ぐらいの国土に約630万人ぐらいの人口。高地で川や滝が多く、電気は水力でおこし、タイにも売っている。農業は焼畑。タイやベトナムなどの近隣諸国と比べ、外国からの進出もあまりなく、あっても労働力と輸送力がない。「いいにつけ、悪いにつけニュースのない国です。日本では馴染みが薄いですが、穴場的な魅力に溢れているので、世界のバックパッカーが集まってくる国です。早朝、托鉢に歩く僧たちの行列や、喧騒とは無縁の街で、のんびりと暮らす人々や子供たちの姿を見ると、このゆっくりと流れる時間こそが、ラオスが誇る最大の観光資源だと思います。シンプルビューティフル」と毛利さんは熱く語る。旅行前に旅行社に電話してラオスのコンセントの形を聞いたら「すみません。ラオスに行ったことがないのでわかりません。何分、ラオスのツアーなんて今まで聞いた事ないですから。今回のツアーは、関西では恐らくはじめてだと思います」という返事であった。知られざる国へ向うと思うと愉快になってきた。

ベトナム航空の青い飛行機に乗ると 6 時間でハノイに着いた。乗り継ぎの 4 時間半を退屈なく過ごしてプロペラ機に乗り込むと、1 時間でルアンプラバンに着いた。窓の外を見ていた夫が「バス停にバスはとまったみたいだ」と言ったのがラオスでの第一声。小さな飛行場の税関で働く女性は、子供を連れていた。これがラオスなのだとつい思ってしまった。出口の向こうで堀澤さん夫妻が浮世絵のポスターに「ようこそラオスへ」と書いて振っていた。

夕食を終えてホテルについたのは深夜の 12 時だった。シャワーがうまく使えない。ラオスは常春と聞いていたが、本当に涼しい。汗もかかないのでシャワーは諦めることにした。

翌朝は托鉢僧がホテルの横を通ったことも知らずに寝ていた。朝食をすませると堀澤さんが自転車でホテルに来られた。小さなバン二台に分乗して、まず、両替に行った。通過はキープ。1 万円は多いと言われ 5 千円をまず替えることにした。そして堀澤さんの案内で王宮博物館から観光がスタートした。仏教が国の宗教と定められているだけに、いたるところで寺院が目につく。次々とお寺を巡っていくと、心の痛む修復が多いことに気がつく。こう思うのは文化財修復に厳しい日本に住んでいるからだろう。これは信仰の対象としての修復なのだった。

古都ルアンプラバンは、山あいの小さな街で、世界文化遺産に指定されている観光都市。二階以上の建物はなく、フランス統治時代の趣ある街並みが残っている。そんな中にある堀澤さんのお住まいにツアー全員招いていただいた。スイカ、メコンの海苔、ココナッツのお菓子等ご馳走になる。家のすぐ裏を大河メコンが流れている。明日は河を船で上り酒造りの村や織物の村、石窟を周ることになっている。

ふと気がつくとう外国にいるという緊張感がない。子供たちがまつわりつく物売りや客引きなどはどこにも見当たらないからだろう。黙ってお店が並んでいる。値切ってはみるが、あまり安くしてくれない。「そんなにしてまで売らないよ」といった感じ。買う方も、すべて手仕事の織りや刺繍を見ると、値切る気がしなくなる。前から欲しかったモン族の刺繍のスカートが 2 枚買えて満足。

日が暮れるころにはプーシーの丘に登って夕日を見る。沈む夕日に小鳥を買って放す。この国では、日想観、放生会といった行いが日常で、生活イコール仏教が生活にある。若い毛利さんがすべての仏様に挨拶を欠かさないから、私たち、おばさんおじさんたちも遅れてはならじとお賽銭と合掌をする。



ルアンプラバン

翌朝、予定通りに暗い内に起きて街に出る。蒸したもち米をセイロに入れて売っている。それを買って、道の端の敷物の上に座り、街中の寺から出てくる托鉢僧を待つ。闇の中から黄色い法衣に身を包んだ僧侶たちが、素足でやってくる。一つまみ一つまみを抱えた鉢の中に入れる。僧には決して触れてはいけない、女人から触れられることは厳しい戒律をおかすことになるからだ。かわいい 10 歳ぐらいの子供の僧を見ると胸が熱くなる。必ず 3 ヶ月以上、寺に入ることが義務つけられている。ラオスは 1975 年に社会主義国家になったとき仏教を禁じられたが、国民が仏教を棄てないので、4 年後にまた仏



王宮博物館

教が認められた。生活できなければ僧侶になれば生きていけるのだそうだ。

ラオスはビールも食事も美味しい。大瓶が 16000 キープ (160 円) で飲める。夕食後にマッサージに行った。全身 (足だけでも) 1 時間 50000 キープ (500 円)。夜も更けて、ナイトマーケットも片付けられた暗い街を軽い体になってホテルに帰った。この街にはもっと居たいと思いながら、次の日は首都ビエンチャンに飛んだ。

### Bunren Reports III

## 民族歌舞団 花こま 2012沖縄公演報告2月27日(月) 国頭郡東村高江ヘリパッド建設反対座り込みテント前公演

折からの雨で公演が心配されましたが、どうにか雨はあがり、ヘリパッド建設反対座り込みテント前で公演を行いました。人口 150 人という東村高江ですが、うっそうとジャングルが一体に広がり、米軍北部訓練場の真ただ中に位置します。海岸線に国道が走り、その道端にテントはあります。全国から寄せられた横断幕が道端にずらりと並び、立て看板、泊まり込み用のキャンピングカー、車もずらりと並びます。座り込みは、曜日を決めて各地から参加され、毎日行われています。2 年前の防衛局の工所用鉄板の設置が行われてからというもの、防衛局と住民とが対峙したかなり厳しい座り込みが続きました。



事前に餅つき公演を呼び掛けると、皆さんに案内が伝わり、皆さん餅をおいしく食べるために思い思いの納豆、マヨネーズ、きな粉、砂糖、醤油等々、具材や箸、お椀まで持ち寄り、どうやっておいしく餅を食べるか工夫を凝らした参加となりました。めいめい車で乗り合わせ、オーストラリア人の方、学生、大宜味村平和委員会の皆さん、子ども連れ親子合わせて 41 名の参加の中行いました。楽しい公演なのですが、公演はとても真剣で、いつもと違う集中した公演となっています。闘っておられる皆さんに喜んで頂けなければ、何の意味もないので、ためされる時間です。本当にこれでいいのか、これでいいのかと思いながら喜んで頂ける様に精一杯の公演を行いました。



公演後、米軍ヘリが訓練に何度もやって来ました。日頃は静かな座り込みテントなのですが、静けさ、餅つきの楽しい雰囲気が一変して、耳をつんざく物々しい雰囲気になってしまいました。恐ろしい操縦をするもので、私達の目の前であの大きな機体を傾け急旋回されると、何もできず呆然と見つめる事しかできませんでした。3 月からは希少生物の繁殖時期のため工事はしないそうです。米軍の戦闘訓練は関係なく続けられます。希少生物には配慮し、人間には配慮しない、「配慮する先が違うでしょうが！」と誰かが叫ばれていました。国はこの座り込み住民を工事妨害で裁判に訴え、今年 3 月、那覇地方裁判所では不当な判決が出されました。

高江の人たちは、この国の権力を使った脅しにも屈せず、静かで平和な村を取り戻すため、新たなたたかいに立ちあがっています。

外国の軍事基地を作るために国は、何故こんなにも住民を無視続けるのでしょうか。私たちの国は、本当に独立した国なのだろうか、そんな思いを強く感じた高江の公演でした。

民族歌舞団「花こま」藤尾千恵子

## 無限の可能性がみえた！ 音楽劇「二十四の瞳」公演

私たち姫路労音は発足以来、サークルを大切に、音楽を通して豊かな成長を目指してきました。しかし、昨年の大震災・津波・原発事故で私たちは経験したことのない困難に直面しています。それでも、被災された人たちは精いっぱい生きています。

今、日本に生きている一人ひとりに、あらためて生き方が問われていると思います。

こんな中、3月25日、地元で募集した6歳から15歳までの24人の子供たちと「二十四の瞳」の音楽劇創りに挑みました。

多くの人涙した感動の名作「二十四の瞳」の音楽劇です。地元の子供たちと一緒にできるならと制作の方と話し合い、子供たちをオーディションで募集しました。大人を募集して、合唱やオペラ、ミュージカルを創ったことはありますが、子供たちとは初めての経験でした。

週2回（土日の午前中）の練習のみ、全員と合せるのは前日の一回だけの計画です。その上、台本が届いたのは今年の1月。それから歌の変更や台本の直しは次々と出されてきます。「子供たちのきらきら輝く瞳を決して曇らせない」原作の壺井栄さんの言葉を大切にしている新しい《共同体創り》の取組みとなりました。

主演の島田歌穂さんはじめキャスト・スタッフの方々、子供たちの家族の方々、労音という、ほとんどの人たちが初めての出会いです。この新しい共同体を一つにしてくれたのは子供たちでした。「練習が楽しい！」と毎回元気に練習に駆けつけてきます。あっという間に台詞を覚え、助け合って歌や踊りも覚え、もう友だちです。その明るく成長していく一人ひとりの姿が勇気と希望を与えてくれました。

子供たちは初めての体験にもかかわらず、直前の演出家のプロと同じ厳しい指導・指摘にも涙は浮かべず、逃げません。弱音も見せず、最後まで自分たちの役に挑み続けました。彼らのひたむきな姿は被災地で精いっぱい生きている人たちと一つにみえました。

本番の子供たちは一人ひとり最高に輝き、個性豊かに見事演じきりました。子供たちの成長が未来を切り開く力となり、公演は、家族の皆さんの大きなご協力もあり、1000名を超え大成功させることができました。

集う場所があり、素晴らしい芸術・文化があれば、まさに新しい感動を創り上げることができます。無限の可能性がハッキリと見えました。

姫路労音  
築谷 治



主演の歌穂さんとの初顔合わせ



カーテンコールでの輝く子どもたち

## 「北川太郎帰国展を見に銀座へ」

2月の文連総会で講演された北川太郎さんの作品をどうしても直接見たくなり、3月7日、会議で上京した折に帰国展が開催されている銀座のギャラリー「せいほう」へ足を運んだ。

複合ビルの一階で、外側が全面ガラス張りのギャラリー「せいほう」、そのドアを開けると、目前に、ペルーで制作された約一トンの石の塊が三つ、圧倒的存在感を持って私に迫ってきた。しかし石の表面は限りなく優しく、そして柔らかい。そして光の当たり方と見る方向、角度によって表れる陰影が見るものの心を温かく包み込む。

ペルーからの運搬に飛行機ではなく船便で運んだそうだ。この大きさを見ると、素人の私でも、移動だけでも大変な作業（費用的にも）であることが想像できる。彫刻は、写真を見るだけでは伝わらないことが多過ぎる。直接見て、触って、周りを歩いてみることで作者の息吹が伝わってくる。

北川太郎さんのこれからが本当に楽しみです。みんなで応援していきましょう。

加茂田陽一



## 文連春の交流会 於てんじく今宿店

今年は梅も桜も時期がおくれ、まだ桜の散り残る4月14日に交流会開催となりましたが、もとより花を見るのは想定外のことでありまして、というのもかつて春の交流会は花見を兼ねたものでありましたが、花見の時期というのは他の会や行事と競合することになるもので、そんな加減で人があつまらなければ寂しく酒を飲まなくてはならぬ。よって花の見ごろをはずして挙げる仕儀と相成ったわけです。この日は文連のメンバーのほかに神戸新聞から三木、金、中川、坂本の4方もくわわり、送迎の車に乗りきれないぐらい。お店にはそんなたくさん座れるでかい中華卓はないよということで、やむを得ず2テーブルに分かれての酒盛り。当方、ビールのほかに好物の紹興酒、そればかりか隣に坂東大蔵師匠がおられるので日本酒もいただく。アルコールの三重奏が体内をかけめぐり、いったいどんな話をしていたのか、さっぱり記憶に残っていないので、交流会の内容を書きとどめることができないのでありますが、まあつつがなく会はお開きにいたり、飲み足りない者たちは二次会へと河岸をかえたのでありました。

(千田草介)

### 24年度姫路文化賞受賞式 12月2日(日)開催決定

24年度姫路文化賞受賞式は、12月2日(日) 鹿島殿(高砂市)にて開催することに決定いたしました。是非ご予約に入れて頂きますようよろしくお願いいたします。盛会となりますよう多くの方々のご参加を期待しております。

## 今 思うこと



江藤國雄

仕事柄各地の社寺に行き時々考える事は、千数百年前に作られた仏像や建築物の前に佇むと当時の職人の息づかいとか掛け声が聞こえてきそうで、その時人々はどんな生活をして毎日を過ごしていたのだろうと想像する事があります。まるでタイムマシンで現場に舞い戻ったように・・・

そんな事を考えていると、もっと時代を逆上ってみるとどうだろう？人類誕生の約 500 万年前として現在まで命の引き継ぎの繰り返しがあり、数えきれない人々が喜怒哀楽の生活をしてきた事、またこれから百年そして千年と時間が流れそれを繰り返していくその中で一瞬の時が 2012 年現在なのです。そんな事を考えていると小さな悩み等吹っ飛んでしまうような気がします。

話は現実に戻り私の事になりますが人生の四分之三を過ぎて振り返ると「長い年月だったな！」と思っていた時間が実は人類の歴史から考えると一瞬どころではない短い時間に私が生かされていることに気付き、それは私達生きている者から次世代の人にバトンを渡していく役目が有りその積み重ねが永い歴史に変わっていくのではないかと考えています。

そして今自分が置かれている立場から考えると五十年、数百年、数千年後にどんな文化が発展しているか楽しみにしたいのですが私がいくらしぶとく生きてもそれだけは叶いません。しかし私の作品が数百年後も在り続けて後世の人に見てもらった時、文章の最初に書いた私の思いが一人でも存在するのならそれはとても素晴らしい事だと思います。

そのためにも数百年後に残るような作品を作り続ける事と自分の技術を後世に伝えていく事が私の役目だと思いこれからも毎日勉強していかなければならないと自分自身言い聞かせています。

追記 いざ現実に自分を見つめると生活に追われ毎日の勉強も難しくサボりたい・遊びたいと思う心が強く悟りを開くのはあと人生の四分の一を過ぎてからになりそうです。